

岡畑興産

岡畑興産は、主力である化学品事業とフットウエア事業で国内ビジネスの基盤固めを図るとともに、グローバル戦略のさらなる拡充を進めている。なかでも化学品事業では、日本、韓国、中国における相互取引を拡大。「現状約20%の海外取引比率を中期的には50%に引き上げる」（岡畑典裕社長）考えで、今年後半からは韓国からの新たな

輸入商材の取り扱いにも本格的に乗り出す方針だ。

化粧品原料の育成に力

「方針で、韓国の化粧品原料メーカー「Dae Ha Man Tech」製の機能性マイクロカプセル「Aroo Capsule」の取り扱いを本格化。酸化や分解が懸念

は、現地の安全・環境規制の強化に対応したスピーディーな生産登録を強みに、日系企業を中心とした高度なニーズに応えている。

同社は昨年、創業70周年という節目を迎えると同時に、岡畑典裕社長による体制下で新たなスタートを切った。

化学品事業では「化粧品原料の育成を積極化す

される機能性素材の安定化を図り、不溶性成分への応用で製材化した安全性に優れるイソシアネートフリーのウレタンカップセルの開拓を図る。

5月末にパシフィコ横

る中国・張家港拠点で

一方、スポーツシューズや紳士靴などの受託製造を行うフットウエア事業では、生産拠点の中国依存から脱却し、ベトナム、カンボジアにその拠点を移したが、将来的にはインドでの生産も視野に入れている。